



令和7年3月14日

名取市議会

議長 長南 良彦 様

民生教育常任委員会

委員長 小野寺 美穂



民生教育常任委員会調査報告書

本委員会において継続調査とした調査事項について、一部調査を終了しましたので、会議規則第100条の規定により、別添のとおり報告をいたします。

令和 6 年 度

民生教育常任委員会

調 査 報 告 書

令和 7 年 3 月

民生教育常任委員会

委員会調査日程

開催日時	場 所	出席委員	欠席委員	説明のため出席した者
令和6年3月21日(木) 自 午後1時58分 至 午後2時36分	第3委員会室	阿部正義委員 外6名	なし	なし
令和6年4月12日(金) 自 午前9時59分 至 午前10時22分	第3委員会室	阿部正義委員 外6名	なし	なし
令和6年5月10日(金) 自 午前10時 至 午前11時55分	第3委員会室	阿部正義委員 外6名	なし	なし
令和6年5月20日(月) 自 午前11時 至 午後0時15分	第3委員会室	阿部正義委員 外6名	なし	なし
令和6年6月28日(金) 自 午前9時59分 至 午前10時22分	第2委員会室	阿部正義委員 外6名	なし	なし
令和6年7月2日(火) 令和6年7月3日(水) 令和6年7月4日(木)	熊本県荒尾市 福岡県北九州市 福岡県福岡市	阿部正義委員 外6名	なし	なし
令和6年8月5日(月) 自 午後1時32分 至 午後4時6分	第3委員会室	阿部正義委員 外6名	なし	なし
令和7年3月14日(金) 自 午後3時19分 至 午後4時21分	第3委員会室	阿部正義委員 外6名	なし	なし

民生教育常任委員会調査報告書

令和6年2月28日付で申し出ました閉会中の継続調査の事件について、次のとおり報告をいたします。

1 閉会中の継続調査事件

- (1) ひきこもり現象の対応
- (2) 高齢者福祉政策の課題
- (3) 不登校問題対策

2 委員会調査経過

開催期日	調査内容
令和6年3月21日	○調査項目及び令和6年度管外行政調査及び研修について
令和6年4月12日	○令和6年度 年間活動計画について
令和6年5月10日	○一般会議 ・不登校児童生徒家庭の子どもへの支援・居場所づくりのため、NPO 法人との包括協定締結の提言 ・子ども若者総合相談センター公設の提言
令和6年5月20日	○所管事務調査 ・不登校の現状について
令和6年6月28日	○管外行政調査及び研修について（事前勉強会）

開 催 期 日	調 査 内 容
令和 6 年 7 月 2 日 ～ 7 月 4 日	○管外行政調査及び研修 7/2 中学校フリースクール事業について (熊本県荒尾市) 7/3 ヤングケアラーに対する支援について、 障がい者スポーツセンターアレアスについて (福岡県北九州市) 7/4 認知症ライフサポートワーカー養成研修事業について (福岡県福岡市)
令和 6 年 8 月 5 日	○所管事務調査 ・ 関上小中学校の現状及び課題について
令和 7 年 3 月 14 日	○報告書案の検討について

3 調査結果

(3) 不登校問題対策

本常任委員会では実効性のある政策提案を行うことを目的に活動するという方針を掲げ、不登校問題対策については、本市教育行政において重要かつ喫緊の課題と捉え、その解決に向け熊本県荒尾市では中学生フリースクール事業を行いきめ細やかな対応をしていること等から同市を視察した。

平成 26 年度に不登校生徒数が過去最多の 87 名を記録し、中学生だけでも不登校生徒数は 69 名であった。一時期減少するも平成 29 年度を境にまた増加傾向に入る。

主な要因としては、「何となく行きたくない」といった無気力型、発達障害、家庭環境等であると捉えている。

令和 2 年当時最も不登校生徒が多かった荒尾第三中学校にフリースクール（ハートフルルーム）を設置し、令和 4 年度に市内 3 つの全中学校にハートフルルームを設置した。

令和 6 年度より小学校の拠点校として桜山小学校内にハートフ

ルルームの設置を行い、不登校児童への環境整備に努めている。

各中学校内にハートフルルームを開設した。同スクールには常時2名の指導者（教員免許保有者）を配置している。午前8時20分から午後4時20分まで、来室した児童生徒を対象に指導を行っている。自宅にいてなかなか登校できない生徒の送迎を行ったり、家庭で教育相談を行う「アウトリーチ型」の取組を行っている。公用車を各中学校に配置し、生徒の送迎等を行う場合もある。令和6年5月末現在、4つのハートフルルームを合計40名が活用している。

また、心の教室相談員として、各中学校に相談員を1名ずつ配置している。週3日、各5時間、生徒や保護者、教職員への相談や不登校生徒等の情報交換を行っている。

また、スクールソーシャルワーカーを市教育委員会に1名を配置し、児童生徒及び保護者の相談対応や不登校等に係る関係機関との連携を行っている。

荒尾市教育委員会における不登校生徒への対応は、各中学校にハートフルルームを設置し、教員免許を有している指導員2名を配置している。さらに、アウトリーチ型の理念に基づき公用車を配置し生徒の送迎を行っている。不登校には様々な要因があると思われるが、将来ある児童生徒が、その成長に応じて、生きる力、潜在的な能力を引き出し、夢や希望が叶えられるよう、きめ細やかな対応を行うアウトリーチ型の中学校フリースクール事業が非常に参考になった。本市においても、不登校問題の解決に向けて、このような取組も参考にしつつ、今後も研究していくべきと考える。

4 委員会における調査報告のまとめ

令和6年度より常任委員会から実効性のある政策提案を行う目的で年間活動計画を立てた。民生教育常任委員会の令和6年度の調査項目として次の3点を上げた。

①引きこもりの対応について、②高齢者福祉政策の課題について、③不登校問題対策についてである。

今年度、まず③不登校問題対策について、子どもの心のケアハウスはなもも教室及び関上小中学校において、また、管外行政視察として、熊本県荒尾市において「中学校フリースクール事業」について調査を行った。

次に②高齢者福祉政策の課題については、福岡県福岡市において「認知症ライフサポート養成研修事業」の内容の調査を行った。

この調査の結果から③の不登校問題対策については、委員会において、はなもも教室の拡充を図るべきなど、一定の結論が出たことから、政策提言書の作成提出を行い、調査を一旦終了することとし、他の項目については、継続調査事項とすることとした。

今後の名取市の発展と市民福祉向上のため、さらなる努力をしていくことを決意し、調査報告とする。

民生教育常任委員会

委員長	小野寺美穂
副委員長	大友 康信
委員	阿部 正義
委員	佐藤さやか
委員	佐藤 繁樹
委員	熊谷 克彦
委員	長南 良彦